



長崎地本だより

発行所  
自衛隊長崎地方協力本部  
長崎市出島町2番25号  
Tel. 095-826-8844



長崎地本公式HP



長崎地本公式 Twitter



長崎地本公式 Instagram

長崎地本（本部長 江上昌利 1海佐）は、8月4日（水）～8月6日（金）の間、海上自衛隊第22航空群主催及び8月6日（金）に海上自衛隊佐世保地方総監部主催の青少年広報に募集対象者45名を引率した。

青少年広報は、募集対象者に海上自衛隊の職場や仕事内容について知ってもらうことを目的として毎年実施されている。

大村航空基地では、参加者が第22航空群（司令 國見泰寛 海将補）の艦載ヘリコプターや消防車を見学し、また、基本教練を体験した。佐世保地方総監部（総監 出口佳努 海将）では、護衛艦「きりさめ」（艦長 野田典典 2海佐）並びに海上自衛隊佐世保史料館を見学したほか、佐世保警備隊（司令 西和男 1海佐）での警備犬訓練を見学・体験した。さらに、佐世保教育隊（司令 柳信男 1海佐）では喫食を体験した。

参加者に尋ねてみると、「入隊後は潜水艦で仕事をしたみたい。」「航空整備の仕事がしたい。」などと熱意を述べ、入隊意欲を高めた様子であった。

長崎地本は、長崎県内の多くの若者に自衛隊に対する理解を深めてもらい、志願者の増加に繋がるよう引き続き積極的な募集広報活動に努めていく。

（募集課）



■パネルによる装備品の説明(大村)



■佐世保警備隊における警備犬展示



■護衛艦の甲板にて説明(佐世保)

長崎地本（本部長 江上昌利 1海佐）は、7月26日（月）から8月27日（金）までの間、本部が所在する出島自治会が実施するラジオ体操のため本部前広場（通称…ヘリコプター広場）を開放した。この支援は毎年の地域恒例行事であるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温、間隔の保持、マスクの着用と手指消毒の励行等、万全の対策を行い、多数の参加者を迎えることができた。また、最終日には、本部長から参加した子供たちに対し記念品を贈呈した。

長崎地本は、地域の一員として自衛隊を身近に感じてもらう、地域との「かけはし」となるよう今後も積極的に地域活動を推進していく。

（総務課）



■最終日に、本部長より記念品の贈呈



国家を守る、公務員。  
自衛官募集中



# 秋の採用試験始まる!



■航空学生試験(大村農協会館)



■自衛官候補生試験(県立大学佐世保校)



■一般曹候補生試験(県立大学佐世保校)

## 離島を含む 県内10ヶ所の 試験会場で実施

長崎地本(本部長 江上昌利 1海佐)は、9月16日(木)に自衛官候補生(女子)及び一般曹候補生の筆記試験を皮切りに、9月17日(金)に自衛官候補生筆記試験(男子)、9月18日(土)に一般曹候補生筆記試験、9月20日(月)に航空学生筆記試験をそれぞれ実施した。

この秋の採用試験は、県内の高校3年生を含む、年内でも最も多く志願者が受験する試験であり、長崎地本全部員が総力を挙げ取り組む一大イベントである。

更に、離島を含む県内10ヶ所の試験会場での試験、且つ、長崎県内の陸海空の支援部隊の支援がなければ成り立たない、極めて重要な試験でもある。

今回の秋の採用試験においては、732名の志願者が受験し、与えられた試験時間中、受験者が最後まで諦めずに、無事、筆記試験を終了することができた。

また、今回の試験以降も、10月中旬以降は、4年制の看護師養成課程である防衛医科大学校看護学科学生試験、6年制の医師養成課程である防衛医科大学校医学科学生試験及び4年制の防衛大学校学生試験(一般)等も予定されている。

今後、一人でも多くの若者が自衛官という職業の魅力を理解して志願してくれることを祈念しつつ、日夜、募集活動に全力で取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

(募集課)

## 臨時勤務お疲れ様でした



護衛艦「こんごう」  
海士長  
矢吹 駿

高校時代からお世話になった佐世保出張所へ入隊希望者に対する説明や佐々町役場での募集広報活動等、貴重な募集業務を体験することができました。特に母校である佐世保実業高校において、艦艇勤務の体験談を交えた講話や学生の疑問解消に取り組むことが出来たことは大変良い経験になりました。自衛隊内には、部隊での勤務だけでなく、募集という重要な業務があり、私の中では新しい扉を開くことが出来ました。今後は、一日でも早く現職種を覚え、自分たちの後輩が立派な自衛官になるように育成していきます。

(7月26日から8月27日まで  
佐世保出張所で臨時勤務)



護衛艦「こんごう」  
海士長  
長尾 遥加

私は普段、艦艇で勤務しているため、陸上勤務はとても新鮮でした。一般の方たちと関われる職場で改めて様々な職種があることを実感しました。地本では、自衛官でありながら民間の会社で働いているような感覚があり、とても魅力的だと感じました。地本の方々は優しく、温かさがありました。この温かさを持ち帰り、これからも任務遂行に貢献できるように精進していきます。

(7月1日から8月31日まで  
諫早地域事務所臨時勤務)

## 地本の期間業務隊員が士長の“自衛隊出戻り”をアシスト



■ 瀧山期間業務隊員と橋本土長

長崎地本(本部長 江上昌利 1海佐)の竹松駐屯地援護室で勤務する瀧山期間業務隊員は、昨年自衛隊を退職した陸士長の“自衛隊出戻り”をアシストした。

第7高射特科群の一般曹候補生であった橋本土長は昨年4月末に自衛隊を退職し、5月に念願であった東京のIT企業に再就職したが、コロナ禍のリモートワークで当初の理想と異なる生活を強いられていた。そこに再就職先定着状況の確認で電話をかけた瀧山期間業務隊員がこの状況を聞き、自衛隊に再入隊する手続きを進めることで合意し、二人三脚の“自衛隊出戻り”プロジェクトが始まった。

プロジェクトの骨子は元自衛官の再任用募集に挑戦することだが、橋本土長は予備自衛官等に登録していなかったため、再入隊しても士長で採用できない問題があった。そのため瀧山期間業務隊員が東京地本に連絡し、まずは予備自衛官への入隊手続きを進めさせた。

令和2年11月に元自衛官の再任用募集が始まったので、橋本土長は長崎地本宛に志願書を提出し、瀧山期間業務隊員は第7高射特科群へ橋本土長が志願する旨を情報提供した。さらに予備自衛官の入隊手続きも長崎地本に移管させ、令和3年3月には予備自衛官に合格し、再入隊が叶った際に士長で採用されることが決まった。そして、いよいよ再入隊の総仕上げに入り、6月に第7高射特科群で副群長等の面接を受験し、合格通知を得て、自衛隊福岡病院で健康診断を受験、6月末には東京のIT企業を退職し、7月1日付で士長として正式採用が決まった。

採用後、竹松駐屯地援護室に挨拶に来た橋本土長に瀧山期間業務隊員が「お帰り、出戻り士長!」と声をかけると、橋本土長は「出戻りって言うな!」と笑顔で反論していた。

長崎地本は瀧山期間業務隊員の活躍に、地本が再就職に多様な援助ができることと、予備自衛官等制度の説明に稀有な実例を残すことが出来たと感じている。

(援護課)